

庵治石の可能性伝える

この人

石材会社を経営しながら庵治石を使ったインテリア雑貨を手がけている和泉恵美さん(57)―高松市牟礼町。インテリアパネルや花器、箸置きなどを女性目線で制作しており「墓石だけじゃない、庵治石の可能性を発信して産地を盛り上げたい」と話す。



「庵治石の可能性を伝えたい」と意気込む和泉さん

あの人

庵治石の墓石や建材販売を手がける「石材商 太元屋」の3代目で、子どもの頃は石を積んだ山が遊び場だった。子育てが落ち着いた頃「庵治石を使って何か面白いことを」と決意。丁場に足を運んで素材を選び、試作を重ねてきた。

面にできるさびや模様の入った部分。これまで使われてこなかった石も「自然の豊かな表情がインテリアに映える」と考えた。中でも、小さくカットした石を詰め合わせ、モザイク状にした。パネルは、オフィスや住宅の装飾として人気という。

地にギャラリーをオープン。交流サイト(SNS)を見て海外からも来客があり、交流の幅が大きく広がった。その一方で庵治石を使って物作りをする女性はまだまだ少数派。「同じ志を持った仲間とアイデアを出し合えたらうれしい」と期待を込めた。

人

人

着目したのは、石の断

2020年には会社敷